

ひとり ひとりの施設探しストーリー

LIFE ON

ライフ オン

vol.
01
2025.12



家族とともに考える“最適な住まい探し”

介護施設探しには、一人一人たくさんのストーリーが生まれます。
それに寄り添う紹介センターです。



介護と住まい
入居サポートセンター

Message

「介護が悩みじゃなくなるよのなかへ」

私たちは、この言葉を合言葉に、介護や住まいのことで不安を抱えるご家族・ご本人に寄り添う入居サポートを行っています。

いざ「施設を探さなければならない」となったとき、
「どの施設が合うのか分からない」「費用の違いが分からない」
「誰に相談したらいいのか分からない」
そんな“分からない”だらけの不安の中で、一人で抱え込んでしまう方が少なくありません。

私たちの役割は、専門的な情報や地域の資源を分かりやすくつなぎ、ご本人の状態・想い、ご家族の事情、経済的な条件をふまえて、最適な選択肢を一緒に考えることです。

医療機関やケアマネジャー、地域包括支援センターとも連携しながら、入居までの道のりを伴走します。

「こんなこと聞いてもいいのかな？」という段階から大歓迎です。
小さな不安や疑問が、少しでも“安心”に変わるきっかけになれば嬉しく思います。

介護と住まい入居サポートセンター
センター長：仙台本店 矢口 智一



弊社の事業コンセプトである
「介護が悩みじゃなくなる世の中へ」
を実現するために
介護を中心とした様々なサービス
をご提供しております。

有料老人
ホーム

居宅介護
支援事業所

訪問介護
事業所

訪問看護
事業所



 **Cienzo** 株式会社シエンズ

〒980-0021

仙台市青葉区中央4丁目10-3 JMFビル仙台01



介護施設探しを、
もっと安心・もっと身近に。

老人ホーム紹介サービスとは

老人ホームを探しているご本人・ご家族・ケアマネジャー様に代わって、当センターがご希望やご状況に合わせた最適な施設をご提案します。施設の見学や送迎も無料で行い、入居まで安心してお任せいただけます。



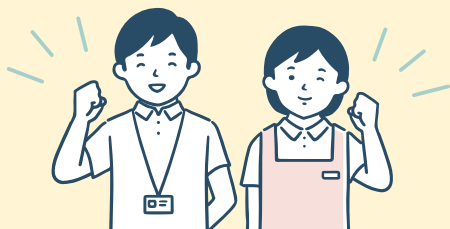
なぜ無料で利用できるの？

当センターでは、施設をご紹介した際に介護施設様から紹介料をいただく仕組みになっています。そのため、ご相談者様やご家族、ケアマネジャー様から料金をいただくことは一切ありません。安心してご相談ください。



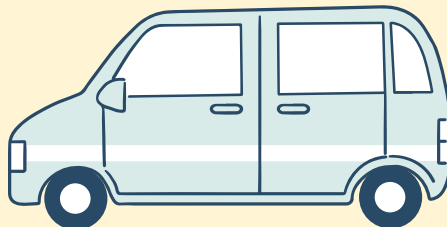
当センターが選ばれる6つの特長

1 当相談員は介護経験者



介護業界経験者・有資格者が在籍。
現場を知る相談員が、制度や施設の違いを
わかりやすくご説明します。

2 福祉車両での送迎



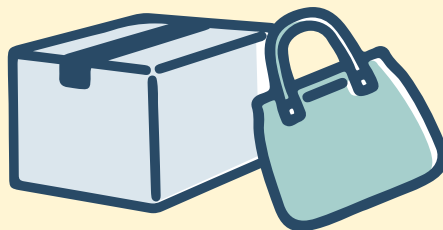
車いす対応の福祉車両をご用意。
ご本人様も安心して施設見学にお出かけ
いただけます。

3 不動産の処分



ご自宅や不動産、家財の整理・処分など、
入居に伴う周辺支援もワンストップでお手
伝いします。

4 お引越しサポート



荷物の搬入・移動をお手伝い。
施設入居時も安心してお任せください。

5 身元保証人支援



家族が遠方にある、保証人が立てられない
などの課題にも対応。必要に応じて、信頼
できる保証支援サービスをご紹介します。

6 入居後のご報告



ご紹介いただいたケアマネジャー様や関係
機関へ、入居後の生活の様子を報告。
連携を大切にしています。



ご相談から入居までの流れ

STEP 1. お問い合わせ

まずはお気軽にご連絡ください。
電話・WEBフォーム・紹介どの経路でも受け付けています。
簡単な状況確認をして、次の面談日を調整します。



STEP 2. ご面談（ヒアリング）

相談員がご自宅やオンラインでお話を伺います。
生活面・体調・経済面・希望条件を丁寧に整理し、
優先順位を一緒に決めます。



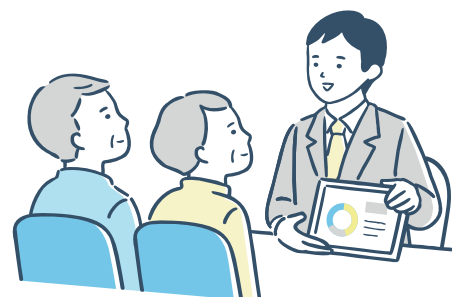
STEP 3. 施設見学（見学同行・送迎）

候補の施設を複数ご提案。福祉車両での送迎・相談員の
同行で、実際の生活環境や職員の様子を確認できます。
車いすの方もそのまま見学可能です。



STEP 4. 連絡調整（入居手続き）

施設が決まったら、書類作成や担当者との連絡、契約手続き
まで相談員が代行またはサポートします。不動産処分や
引越し手配もご相談ください。



STEP 5. ご入居（入居後フォロー）

入居当日は搬入や案内をサポート。入居後
も定期的に状況をご報告し、生活に困りごと
があれば連携して対応します。



事例 紹介 1

呼吸器疾患で在宅生活が難しくなり、介護施設への入居を検討された。
— 「とにかくどうしていいかわからない」 から始まったご相談 —



ご本人

73歳 男性 / 要介護 2 / 間質性肺炎・酸素療法中

ご相談元

急性期病院 地域連携室
医療ソーシャルワーカー T 様

間質性肺炎のため酸素療法を継続中で、点滴や尿道カテーテル、オムツ交換など医療的ケアが必要な状態でした。嚥下機能が低下しており、今後は点滴ルートの変更（中心静脈栄養など）も検討されていました。退院後しばらくは自宅で奥様と暮らし、訪問看護や訪問リハビリを利用していましたが、徐々に起き上がることがづらくなり、ベッド上での生活が中心に。1日1～2回のリハビリも、体調によっては継続が難しくなっていました。

ご家族の不安・お困りごと

- 酸素や点滴、たん吸引が必要と聞くと、自宅でみるのはもう限界だと感じている
- 施設に入ったほうがいいと言われても、どんな種類があって、どこまで医療的な対応ができるのか全くわからない
- 自宅は市内中心部、娘は少し離れた住宅地に住んでいる
- 医療費の自己負担も3割で、これから先どれくらいお金がかかるのか想像がつかず、経済的な不安が大きい

ご家族は「施設には入りたい気持ちはあるが、どこが本人に合っているのか全くイメージができない」という状態でした。



当センターでは、まず医療的な必要度とご本人の生活の希望、そしてご家族の「不安」の整理から始めました。

当センターの提案

医療ケア

酸素・点滴・吸引など対応可の施設を選定

リハビリ

専門スタッフ常駐の施設を候補に

エリア

家族が通いやすい立地を優先

経済面

具体的な費用シミュレーションを実施



担当相談員
仙台北店 白畑 大吾

「医療対応が手厚い住宅型有料老人ホーム」や「看護師が24時間常駐し、吸引・点滴にも対応できる施設」を中心に、複数の候補をピックアップしました。さまざまな観点から、まずいくつかの施設を候補としてご提案し、その中から条件に合致した2施設に絞り込んで、見学に進むことになりました。

ご紹介先施設：医療特化型 住宅型有料老人ホーム

施設見学のサポート（2施設の比較）

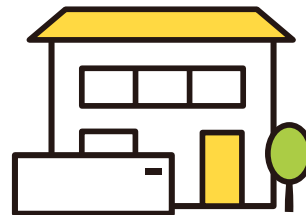
見学当日は、当センターの担当者もご家族と同行しました。

最終的には、医療的ケアとリハビリのバランス、ご家族の通いやすさ、経済的な負担額を総合的に比較し、2施設目への入居を決定されました。決定の大きなポイントとなったのは、次の3点です。

- 医師・看護師との連携がスムーズで、呼吸器のリハビリにも取り組んでいること
- リハビリスタッフが常駐し、ベッド上での足上げ運動や、座位保持の練習などを、体調に合わせて無理なく行っていること
- 家族が面会しやすい場所にあり、娘様の職場からも通いやすい立地であること

ここなら医療的なことは
全て任せられそう

リハビリも、その日の
体調を見ながら調整して
くれると聞いて安心した



ご入居後の暮らし



入居後は、

- 体調の良い日は1日1回、短時間のリハビリを継続
- 体調が優れない日は無理をせず、ポジショニングや呼吸のケアを中心に
- 吸引が必要なタイミングでもすぐに看護師が対応してくれる体制

となり、「夜間、急に苦しくなったらどうしよう」という奥様の不安は大きく軽減されました。

ご家族の声

「正直、『酸素』『点滴』『中心静脈』と言われても何がどう大変なのか分からず、とにかく不安だけが大きくて…。入居サポートセンターさんが一つひとつ噛み砕いて説明してくれて、『うちの父の状態なら、こういう施設が合っていますよ』と専門的に整理してくれたので、ようやく進む方向が見えました。」

「自分たちだけでは、この施設には医療がどこまであって、費用はこれくらいで…という比較は到底できませんでした。候補をいくつか出してもらい、2カ所を一緒に見学してもらえたことで、『ここなら任せたい』と家族で納得して決めることができました。」



医療相談員の声

「退院を控えていたものの、ご本人の呼吸状態や医療的ケアの必要性から、在宅復帰は難しい状況でした。ご家族も初めてのことで不安が大きく、“どんな施設を選べばいいのか全く分からない”という状態でした。入居サポートセンターさんには、医療連携体制が整った施設をいくつか迅速にご提案いただき、家族にも分かりやすく説明してくださったおかげで、スムーズに退院・入居が進みました。」

私たち医療側としても安心して連携できる存在ですし、今後こうしたケースでぜひ相談したいと思っています。」
— 医療ソーシャルワーカー T様（急性期病院 連携室）



事例紹介2

家族からの虐待により生活基盤の再構築が必要となったご相談。
— 「頼れる人がいない。でも一人ではどうにもできない」 —



ご本人

89歳 / 女性 / 家族からの虐待あり

ご相談元

地域包括支援センター N様

高齢の女性は、体調悪化により現在は医療機関に入院中でした。入院前は自宅で生活していましたが、家族との関係性が悪く、長女は障がいがあり、次女からは過去に虐待を受けていた経緯もあり、**自宅へ戻ることは現実的に難しい状況**でした。入院先の病院でも、「退院後の生活場所がない」「家族の協力が見込めない」という点が大きな課題となり、医療機関からまず**地域包括支援センター**へ相談が入りました。経済的にも余裕はなく、介護施設への入居を検討するにあたっては、**生活保護の申請を同時進行で行う必要があるケース**でした。虐待歴や生活状況から、**保健所とも連携しながら慎重に支援を進める必要があるケース**として位置づけられ、入院中の医療機関・地域包括支援センター・保健所の連携のもと、当センターへ施設紹介のご依頼をいただきました。

ヒアリングと提案

相談員は、

- 入院先の医療機関
- 地域包括支援センター
- 保健所

と連携し、ご本人の状態・生活歴・経済状況を整理。



ご本人のご意見

「家族にはこれ以上迷惑をかけたくない」
「でも一人で暮らすのはもう無理だと分かっている」

当センターでは3つの課題を軸に整理しました。

- 自宅には戻れない（虐待・家族関係）
- 退院時期が迫っている
- 生活保護の申請が必要

施設方針

生活保護に対応し、早期入居できる施設に絞って提案

安全面

虐待歴・家族関係の複雑さを踏まえ、安心できる生活環境

行政手続き

生活保護課との連携、申請サポートを当センターが主導

支援の継続性

保健所・医療機関・地域包括の3者連携による支援体制

生活支援

身元保障・金銭管理サービスの活用で、単身でも安心



担当相談員
山形米沢店 石栗 碧

ご紹介先施設：生活保護の方が入居可能な有料老人ホーム

見学・入居決定

ご本人は入院中で体力的な負担も大きかったため、見学は1施設のみとしました。医療機関・地域包括支援センターと調整し、施設職員が病院を訪問して説明と面談を実施。施設の写真や居室の様子と一緒に確認しながら、ご本人は「**ここなら安心して生活できそう**」と入居を希望されました。

その後、

- 生活保護申請
- 身元保証契約
- 入居契約

を同時進行で調整。**相談から約2週間で入居**となりました。



入居後の変化



入居後は、食事・入浴・服薬などのサポートが継続され、生活リズムが安定。孤独感や不安も和らぎ、スタッフや入居者との会話を楽しむ時間が増えています。

金銭面では当センターの身元保証サービスを活用し、生活保護費の管理や支払いが適切に行われるよう支援。医療機関とも継続的に情報を共有し、体調変化にも早期対応できる体制を整えました。



ご本人の声

家族にも頼れず、家にも帰れないと思うと不安でいっぱいでした。病院の先生や地域の人たち、それから入居サポートの方が一緒に考えてくれて、今こうして安心して暮らせています。



地域包括支援センターの声

虐待歴や経済的課題が重なり、非常に支援が難しいケースでした。入居サポートセンターさんが、医療・保健・行政との調整を一括して進めてくださったことで、退院から入居まで切れ目なく支援できました。ご本人の不安が“安心”へ変わっていく様子を見守れたことが、とても印象的でした。



医療機関の声

家族からの支援が得られない中、地域包括支援センター・保健所・入居サポートセンターが一体となって動いてくださったことで、退院支援をスムーズに進めることができました。医療と生活をつなぐ存在として、今後も連携を続けたいです。

事例紹介3

医療的ケアが必要となり、ひとり暮らしの継続が難しくなった81歳男性の場合
— 「頼れる家族がない中で、安心できる生活を見つけない」 —



ご本人

81歳男性 / 腹部大動脈瘤（61mm）、
膵臓がん、膀胱がんを併発

ご相談元

医療機関 地域連携室 ソーシャルワーカー K様

腹部大動脈瘤（61mm）、膵臓がん、膀胱がんを併発し入院中。医師の見立てでは余命半年～1年とされ、治療を継続しつつも、今後の生活の場をどのように整えるかが課題となっていました。

入院中の転倒による整形外科入院歴もあり、身体機能の低下が進行。認知機能はしっかりしており「最後まで人に迷惑をかけたくない」と話されていましたが、家族とは長年疎遠で、支援を受けられない状況でした。

年金収入は月15万円（年2回ボーナス5万円）と限られており、費用面の不安も大きく、病棟スタッフから「在宅復帰は難しく、医療対応ができる施設を探したい」として、当センターへご相談が寄せられました。

ヒアリングと提案

当センターの相談員は、ご本人と面談のうえ、生活・医療・経済の三面から課題を整理しました。

- 医療依存度が高く、看護体制が必要であること
- 自費負担に限りがあること
- 信頼できる身元保証人がいないこと



これらを踏まえ、「医療的ケア対応」かつ「金銭管理・身元保証を代行できる施設」を中心に候補を抽出。

当センター独自の「身元保証・金銭管理サポート制度」を活用し、医療連携型の住宅型有料老人ホームを複数ご提案しました。

施設側とも個別に条件調整を行い、ご本人の希望である「病院から近く」「最期まで安心して暮らせる場所」という観点から、最も適した施設を選定しました。

候補施設	医療的ケアに対応し“看取り”まで見据えた施設
経済面	年金収入内での負担に収まるよう、見積調整を実施
身元保証	当センターの保証・金銭管理制度を提案
医療連携	治療継続と終末期ケアが受けられる医療連携型ホーム
立地条件	病院から近く、落ち着いて過ごせる環境を優先して選定



担当相談員
仙台本店 矢口 智一

ご紹介先施設：お看取り対応可能な介護施設

見学・検討

体調面を考慮し、見学はオンラインで実施。

病状を考慮し、ご本人はオンラインで施設の様子を見学。
医療対応・終末期ケアに理解のある施設を中心に2か所をご提案。
ご本人は、「ここなら自分のことを任せられる」と前向きに話され、
入居を決定しました。



入居後の変化



入居後は、施設の看護師による日々の体調管理と、
外部医療機関との連携がスムーズに行われています。
金銭管理・生活支援も当センターの連携体制により
一元化され、ご本人は「安心して過ごせる」と穏やかに
生活されています。



ご本人の声

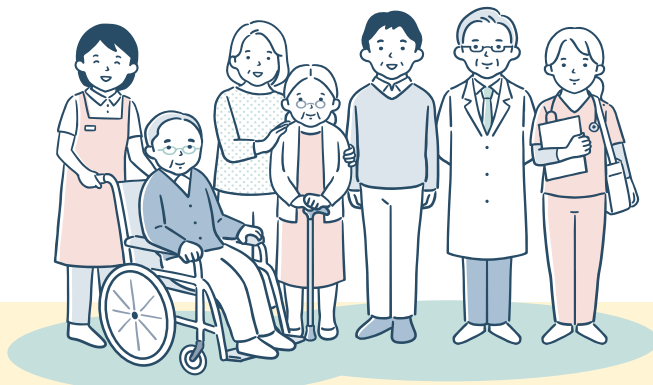
家族にも頼れず、家にも帰れないと思うと不安でいっぱいでした。病院の先生や地域の人たち、それから入居サポートの方が一緒に考えてくれて、今こうして安心して暮らせています。



医療相談員の声

家族の支援が得られず、在宅復帰が難しいケースでした。施設の受け入れ調整や保証人の確保など、私たち医療側だけでは難しい部分を迅速に対応していただき、退院支援がスムーズに進みました。医療・介護・生活を一体的に支える仕組みとして、非常に心強く感じました。

お一人おひとりに合う、
安心した介護生活を送れる
環境がきっと見つかります。
お気軽にご相談ください。

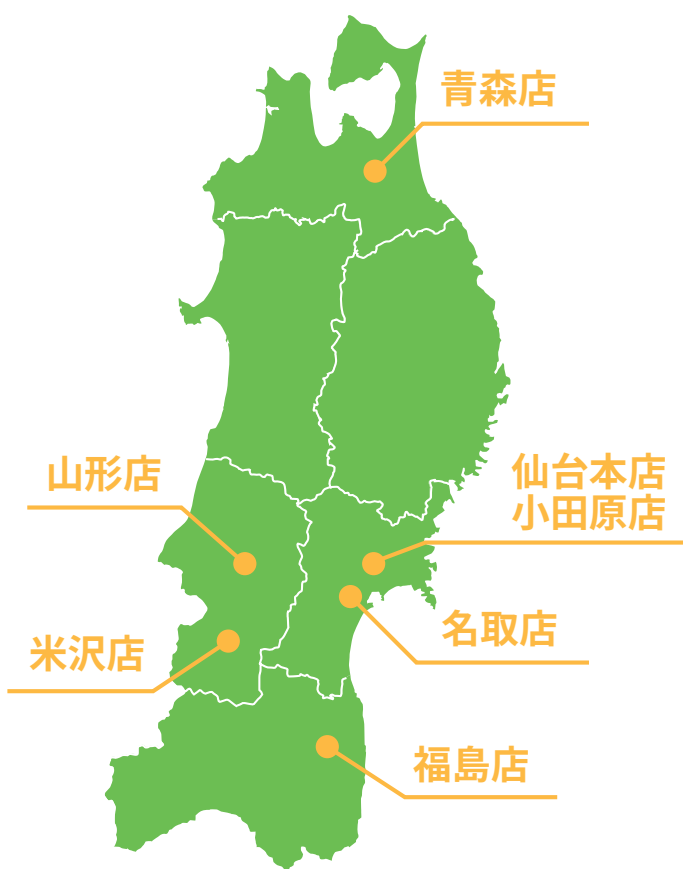




介護と住まい 入居サポートセンター

- ・ 9月15日 仙台小田原店 新規OPEN！
- ・ 10月15日 福島店 新規OPEN！
- ・ 10月1日 青森店 新規OPEN！
- ・ 12月1日 山形店 新規OPEN！

東北各地で店舗展開中！



仙台北店

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央 4丁目
10-3JMFビル仙台 01-2F

小田原店

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区小田原 4丁目
2-50-2

名取店

〒981-1231 宮城県名取市手倉田堰根 356

福島店

〒960-8068 福島県福島市太田町 20-7
博愛ビル 2階

山形店

〒994-0016 山形県天童市東久野本 2丁目
6-6-102

米沢店

〒992-1123 山形県米沢市万世町桑山 2194

青森店

〒039-0612 青森県三戸郡南部町下名
久井字剣吉前川原 1番地 19

施設をお探しの方はまずはお電話でご相談ください

介護が“悩み”じゃなくなる世の中へ



Cienz

株式会社シエンス

〒980-0021 仙台市青葉区中央 4丁目 10-3 JMFビル仙台 01

ホームページ

0120-347-142

受付時間 9:00 ~ 18:00

